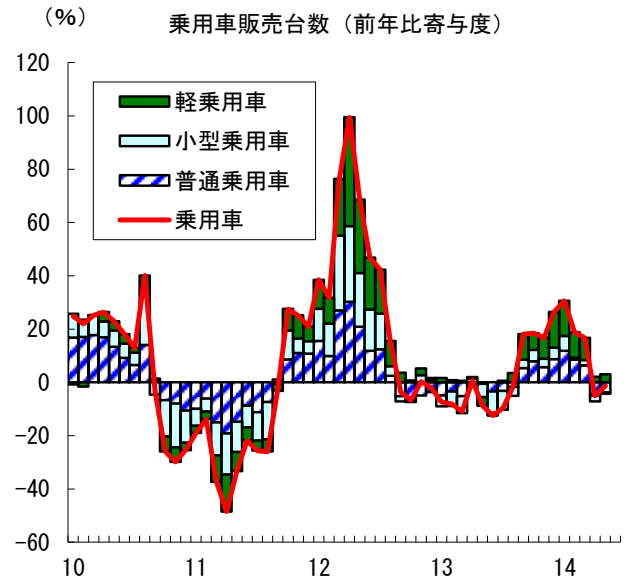
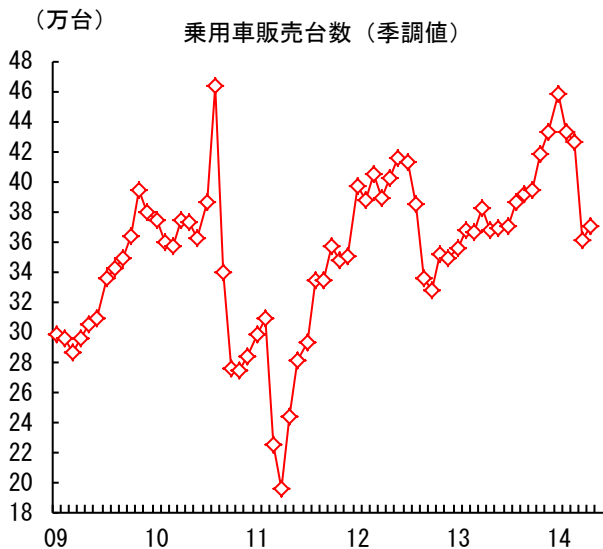


テーマ：新車販売台数（2014年5月）

発表日：2014年6月2日（月）

～自動車販売の減少幅は前回増税時よりも小さい～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

（注）季節調整は第一生命経済研究所

○ 駆け込みの反動により2ヶ月連続の前年比減少。4-6月期の個人消費は大幅減へ

本日公表された5月の乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比▲1.3%となった。前月の▲5.1%からは減少幅が若干縮小したが、2ヶ月連続のマイナスであり、駆け込み需要の反動の影響が続いていることが確認できる。また、季節調整値（筆者試算。以下同様。）で見ると、4月の前月比▲15.4%の後、5月は+2.7%となった。5月は「底ばい」といったところだろう。

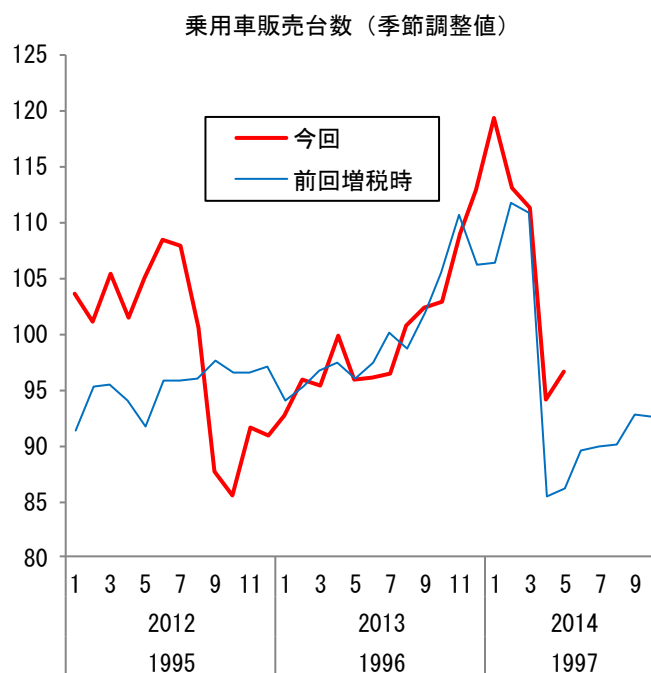
なお、季節調整値で見た4-5月平均の値は1-3月期を16.7%下回っている（13年10-12月期：前期比+8.4%、14年1-3月期：+5.9%）。駆け込みの反動が顕著に出ており、4-6月期は自動車販売の落ち込みが個人消費を大きく押し下げることになるだろう。自動車以外の消費についても4月は大幅な落ち込みが示されており、4-6月期の個人消費は大幅減が確実、GDPも大幅マイナス成長必至の情勢だ。

○ 減少幅は前回増税時よりも小さい

ただ、5月の乗用車販売の数字自体は悪いわけではない。4月分の販売は、増税前に積みあがった高水準の受注残の影響で押し上げられていたため、その影響が弱まる5月にはさらなる悪化がみられる可能性があると考えていたが、実際には小幅とはいえ前月比でプラスとなり、悪化に歯止めがかかる形になった。日本経済新聞によると、月末にかけて徐々に持ち直しがみられたとのことである。

また、前回増税時と比較すると、97年3月は前年比+14.1%（97年1-3月期：+14.1%）、4月が▲14.0%、5月が▲11.7%だったが、今回は14年3月が前年比+16.7%（14年1-3月期：+20.9%）、4月

が▲5.1%、5月が▲1.3%であり、前回対比落ち込みが小さい。季節調整値では、97年4月が前月比▲22.8%、5月が+0.6%だったが、今回の14年4月は▲15.4%、5月は+2.7%である。また、97年4-5月平均の水準（季節調整値）は1-3月期を21.8%下回っていたのに対して、14年4-5月平均の水準は1-3月期を16.7%下回るにとどまる。自動車販売における今回の駆け込み規模は前回増税時よりも大きかったが、その割に4、5月の落ち込み幅は前回よりも小さいと判断される。今のところ、自動車販売は増税後も比較的健闘しているとの評価が妥当だろう。少なくとも、反動減の域を超えて販売台数が大きく落ち込んでいる状況にはない。



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会
 （注）季節調整は第一生命経済研究所
 （注）2013年平均、1996年平均をそれぞれ100として指数化